



予想を上回る240名の結集でかちとられた交流センター合宿

確信を得た「交流センター」合宿

俺にももてる!

五月六日〜七日、全国労組交流センターの「合宿」が伊豆大川の閑静な高原の中にある国労教育センターで開催され二日間にわたって参加してきた。

正直いって勉強ぎらいな私としては盛り沢山のテーマを見ただけで足が重かったのだが、結果は全く逆であった。様々な問題が色々な角度から提起され「なるほど」と感心したりしているうちにアツという間に終わってし

まいなごりおしさを感じたほど充実した合宿だったといえる。

まず初日、教育センターの大講堂に入ってビックリ! 高い旅費と宿泊料を払って二五〇名をこえる仲間が参加しており、会場は熱気でムセかえっていたからである。

最初に、「センター」の所長であり前国労委員長の本木さんが歓迎の挨拶をおこなった。本木さんは写真で見るとより労働者の風貌であり、話もユーモアをまじえながら力強く「内外にJR包囲網をつくるため闘う」と決意され会場もわれんばかりの拍手と声援につつまれた。

その後、十八時三十分

まで、呼びかけ人の佐藤氏(東京地域連帯労組委員長)と中野委員長の話、そして、「連合」とは何か、という題で都労活の根岸氏、民同労働運動批判について全通労働者でもある神子高人氏、婦民全国協の伊藤由美子さんから「女性労働者の現状と労働運動」と題しての講演、それぞれが豊富な経験を通して生き生きと語られ、大いに勉強になった。

学習のあとはみんなで楽しく会食し、再び三時間にもわたる交流会を行った。なかには徹夜で話し合っていた仲間もかなりいる。この熱が、何か新しいものを創造していく場合の源動力ではないだろうか。

講演と交流会の内容については膨大なので別の機会にゆずるとして、結論的にいって、この秋、

十周年記念レセプションでの

来賓の方々の発言

全金本山労組・中野書記次長
物資販売は解雇者を支える。闘争財政をつくるという面で、そして、全国に運動を広めるうえで、極めて重要な。動労千葉がいよいよ、総評解体という状況の中で、日本の労働運動をリードする時に来ていると思う。

争議団連絡会議・新居崎氏

今秋には「連合」が発足し、総評が解体される。こういう状況の中で、一人の首切りも許さない実力闘争で闘うということが、ますます労働者の共通の問題になるだろう。

今年こそ闘う労働者の真の闘う戦線をつくっていく闘う正念場だ。権力・資本はわれわれをつぶすために躍起となると思うが、私達の連帯をもってさらなる闘いを展開することを決意している。



5・5北富士現地集会に参加

5月5日、北富士の檜丸尾において北富士入会林強奪阻止、県境越え実弾演習阻止、檜丸尾入会の森のオープンを宣言する北富士現地集会が開催された。動労千葉からも家族会と合わせ代表が参加し、母の会・入会組合と連帯し基地撤去をかちとることを明らかにしてきた。▼また、集会後オープンされた入会の森においてバーベキューをつまみ親睦を深めてきた。

5/23 清算事業団差別事件
地労委闘争 14:00 本千葉集合

5/28 三里塚現地集会 10時成田集合
才2陣も有り

総評の解散という重大情勢を前に無力感や投げやりになるのではなく、「やれば出来る」「交流センターを全国に形成しよう」「九〇年代の激動を労働者らしく、したたかに闘い切りひらこう」という気持をもてたということである。

中野委員長が最後に方針提起を行ない、満場一致でそれを確認した。私も確認された「九月の集会」「十月の大結集」「一月全国総会」の大成にむけて奮闘する決意を明らかに、感想とします。

全組員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年!